

2024 年卒
Vol. 7

5 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 5 月発行)

企業の採用広報開始から 2 カ月。2024 年卒学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行った。内定状況のほか、内定取得後の意思決定に必要な情報やフォロー、今後の活動方針など、多岐にわたる項目を調査した。前年同期調査や先月調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認したい。

1. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 23.2 社。前年同期調査 (24.7 社) を下回る
- セミナー参加社数の平均は、オンライン 12.4 社、会場型 4.0 社

2. 選考試験の受験状況

- ES 提出社数は平均 12.6 社、筆記試験は 8.9 社で、前年同期を下回る。面接は同数 (7.4 社)
- 本選考応募企業の約 7 割がプレ期に興味を持った企業。「3 月以降に興味」は 3 割

3. 5 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 70.2%。前年同期実績 (65.0%) を 5.2 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 34.2%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて 65.9%
- 文理で差が目立ち、文系の終了者は 2 割台にとどまる (24.5%)

4. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中 (33.4%)。2 位「建設・住宅・不動産」(17.6%)
- 従業員 5,000 人以上の大手企業からの内定が年々増加。3 割強を占める (35.4%)

5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

- 「社員との交流機会」が圧倒的に多い (72.9%)。次いで「人事担当者との面談」(51.3%)
- 入社への意思決定に直面でのフォローを必要とする学生は 8 割超。過去 2 年を上回る

6. 就職活動継続学生の動向

- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げていく」
- 内定有無によらず、就職活動を終えたい時期は今年も 6 月に集中 (46.6%)

7. 就活川柳

- 「辛いのは 落ちることより 辞退です」
- 「コロナ明け 対面増えて 右往左往」 など佳作を紹介

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

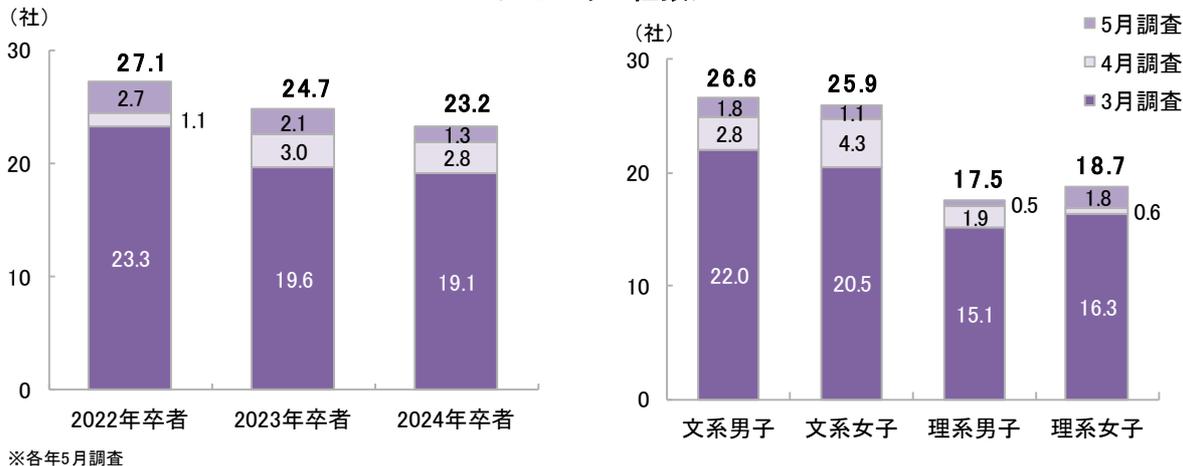
調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,252 人 (文系男子 401 人、文系女子 380 人、理系男子 318 人、理系女子 153 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023 年 5 月 1 日~7 日
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

1. エントリー社数とセミナー参加社数

採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での、就職活動状況を調べた。

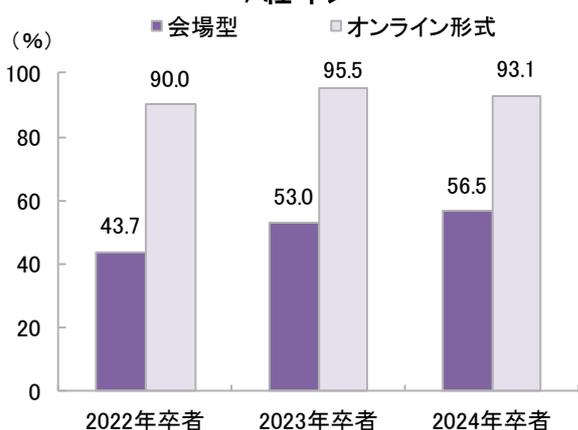
まず、一人あたりのエントリー社数の平均は 23.2 社。この 1 カ月での増え幅は 1.3 社にとどまり、4 月調査に引き続き前年同期実績を下回る。文理男女別に確認すると、理系は男女とも 20 社未満で、文系に比べ活動量が少なめ。特に理系男子は、この 1 カ月の増え幅が 0.5 社と少ない。

＜エントリー社数＞

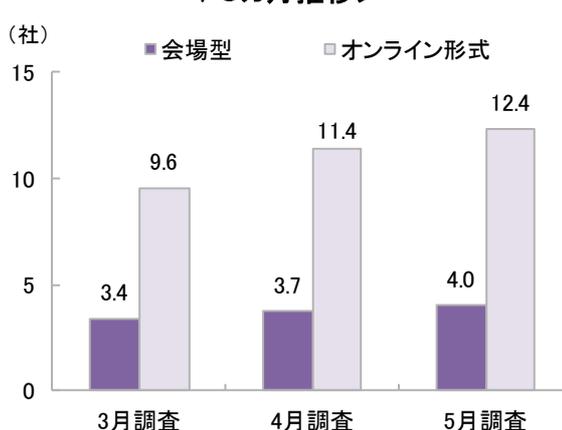


企業セミナー（会社説明会）の参加状況については、開催形式ごとに尋ねている。「会場型」に参加経験のある学生は前年よりさらに増え、56.5%に。コロナ禍の影響で大きく落ち込んだが、徐々に戻ってきている様子が見える。一方「オンライン形式（WEBセミナー）」の参加経験者は今年も全体の9割超に上る（93.1%）。参加社数は会場型が平均4.0社で、オンライン形式は12.4社。エントリー同様、先月調査からの伸びは緩やか。

＜企業セミナー 参加・視聴経験 / 経年＞



＜企業セミナー 参加・視聴社数 / 3カ月推移＞



＜企業セミナー参加・視聴社数 / 属性別＞

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.0	4.9	4.1	3.1	2.8
オンライン形式視聴社数	12.4	12.8	14.1	9.9	11.7

(社)

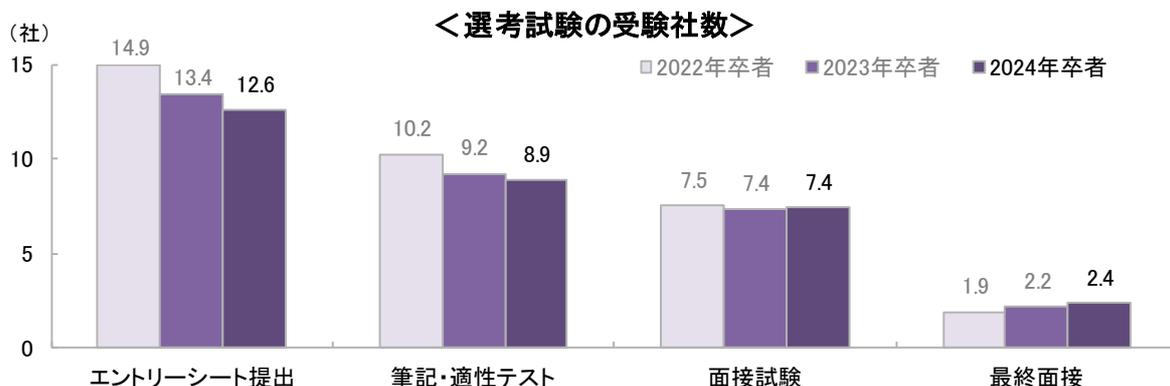
2. 選考試験の受験状況

次に、選考試験の受験状況を確認したい。エントリーシート (ES) 提出、筆記・適性テスト、面接試験まで、経験率はいずれの属性も 9 割を超えている。最終面接については、全体の 8 割近くが受験経験を持つ (79.7%)。理系学生でより高く、進行の早さが見て取れる。

経験率は前年同期とほぼ同水準だが、エントリー社数と同様に、ES 提出社数と筆記試験も前年実績をやや下回っている。早くから内定を得る学生が多かったことで、全体の活動量の減少につながったと見られる。ただし、最終面接を受けた社数は年々上昇 (1.9 社→2.2 社→2.4 社)。あくまで 5 月時点の数字ではあるが、最終段階まで進む割合が高まっている。

<選考試験の受験状況>

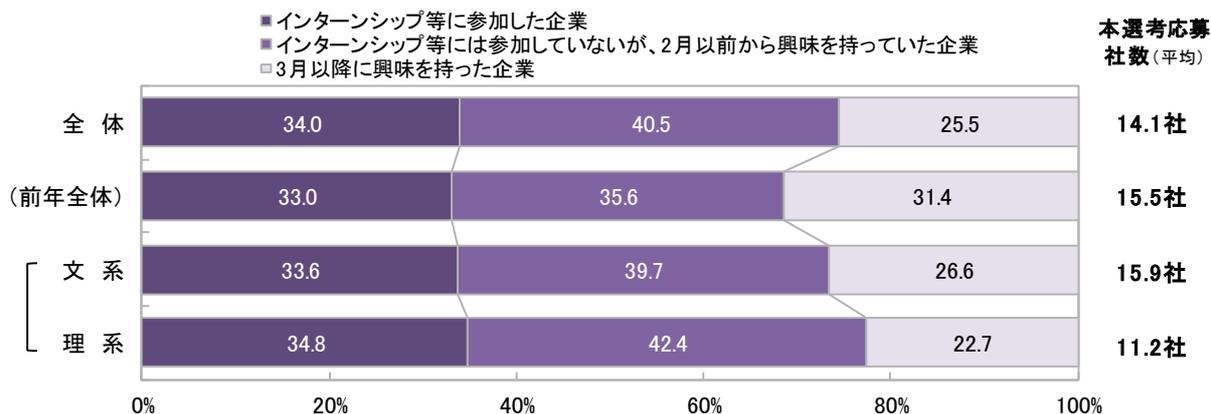
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	94.2	94.6	94.0	95.8	92.7	93.5
筆記・適性テストを受けた	93.1	94.0	94.0	95.0	90.9	90.8
面接試験を受けた	92.2	92.4	92.3	92.1	92.1	92.1
最終面接を受けた	79.7	76.8	75.3	79.5	83.6	83.6



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

ES提出など本選考に応募した企業の内訳を尋ね、前年調査と比較した。「インターンシップ等 (※) に参加した企業」は変化ないが (34.0%)、「インターンシップ等には参加していないが、2月以前から興味をもっていた企業」の割合が増加し、全体の4割を占めた (40.5%)。両者を合わせると74.5%となり、本選考応募企業の4社に3社は、採用広報開始前のプレ期に接点をもったり、興味を持ったりした企業ということになる。理系学生においては8割近くに上る (計77.2%)。 (※1日以内のプログラムも含めて調査)

<本選考に応募した企業の内訳>



3. 5月1日現在の内定状況

5月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の70.2%。4月調査(52.9%)からの1カ月間に17ポイント余り上昇し、7割に達した。5月の内定率が7割を超えたのは、比較が可能な2004年調査(05年卒)以降で初めて。ただ、先月調査に比べれば前年同期との差は縮まった(6.4ポイント差→5.2ポイント差)。

内定率は理系学生においてより高く、男女とも7割台後半を示している(理系男子75.2%、理系女子76.5%)。

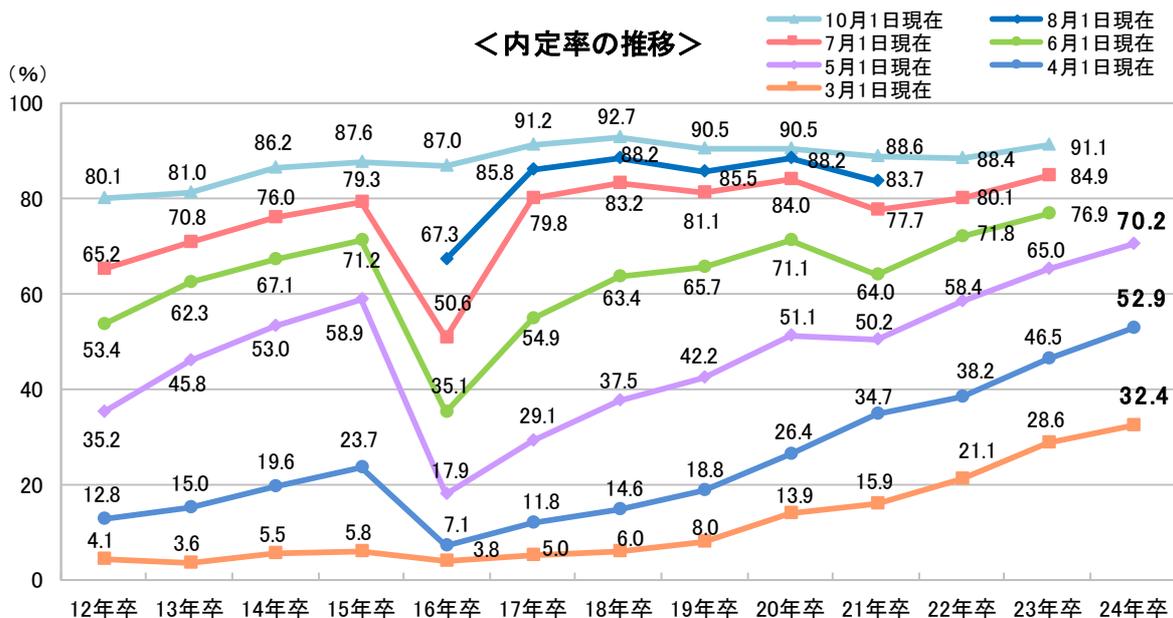
内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは40.4%。内定取得後も半数以上(51.4%)が就職活動を継続していると回答した。

＜5月1日現在の内定状況＞ *「内定」には、内々定を含む

		内定率 (%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		70.2 (65.0)	65.3 (60.6)	68.7 (65.7)	75.2 (68.1)	76.5 (69.2)
内定なし		29.8 (35.0)	34.7 (39.4)	31.3 (34.3)	24.8 (31.9)	23.5 (30.8)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	40.4 (42.2)	32.1 (33.8)	25.7 (28.7)	57.7 (61.7)	56.4 (52.2)
	活動は終了したが複数内定保持	7.5 (6.5)	6.9 (4.6)	8.4 (8.4)	8.4 (6.3)	5.1 (6.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.7 (0.4)	0.0 (0.4)	0.4 (0.0)	1.3 (0.9)	1.7 (0.0)
	就職活動継続	51.4 (51.0)	61.1 (61.3)	65.5 (62.9)	32.6 (31.1)	36.8 (41.1)

		内定社数/平均 (社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.2 (2.1)	2.1 (2.1)	2.2 (2.0)	2.1 (2.2)	2.2 (2.3)

※ () 内は前年(5月1日現在)の数値

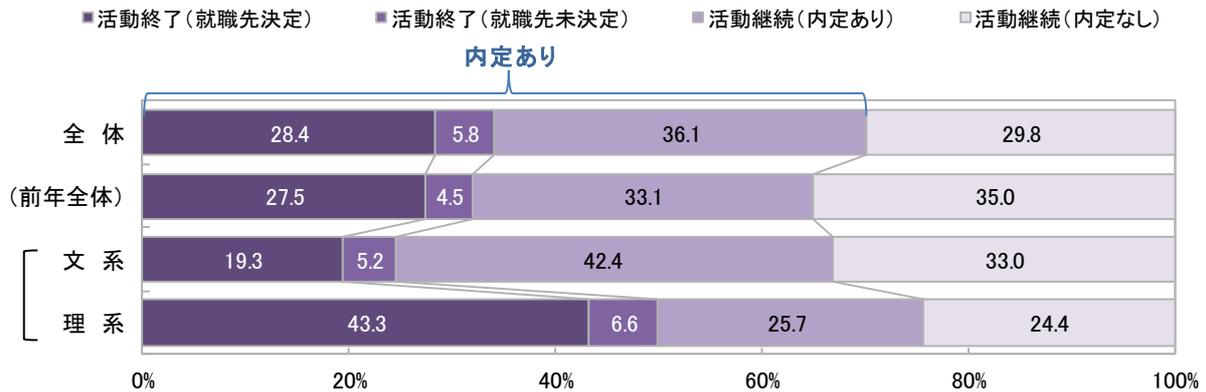


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒以降は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見てみる。就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 28.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (5.8%) を合わせると、終了者の割合は 34.2%。未内定者をあわせて全体の 6 割強 (計 65.9%) が活動中となる。

ただし文理で差が大きく、文系の終了者は 2 割台 (計 24.5%) であるのに対し、理系学生は約半数が終了したと回答した (計 49.9%)。

<活動状況の分布>



4. 内定を得た企業の属性

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が先月に続いて 1 位。ポイント数も増え (25.0%→33.4%)、この 1 カ月でさらに多くの内定が出た様子が見える。2 位は「建設・住宅・不動産」(17.6%) で、3 位は「調査・コンサルタント」(13.2%)。上位 3 位は前年同期調査と同じ順位。

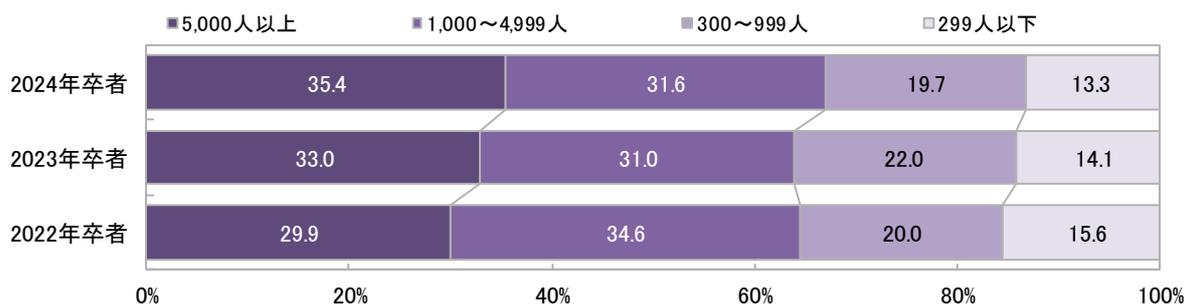
内定企業の従業員規模の比率を出してみると、最も多いのは「5,000 人以上」。年々比率が増しており (29.9%→33.0%→35.4%)、大手企業の内定出しが早まっているようだ。

<内定を得た業界 (上位 5 業界) >

	全体	文系	理系
1 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	33.4	31.7	36.0
2 建設・住宅・不動産 ②	17.6	15.9	21.9
3 調査・コンサルタント ③	13.2	14.7	20.2
4 電子・電機 ④	12.3	11.5	15.2
5 人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑤	10.7	11.5	14.9

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

<内定企業の従業員規模>

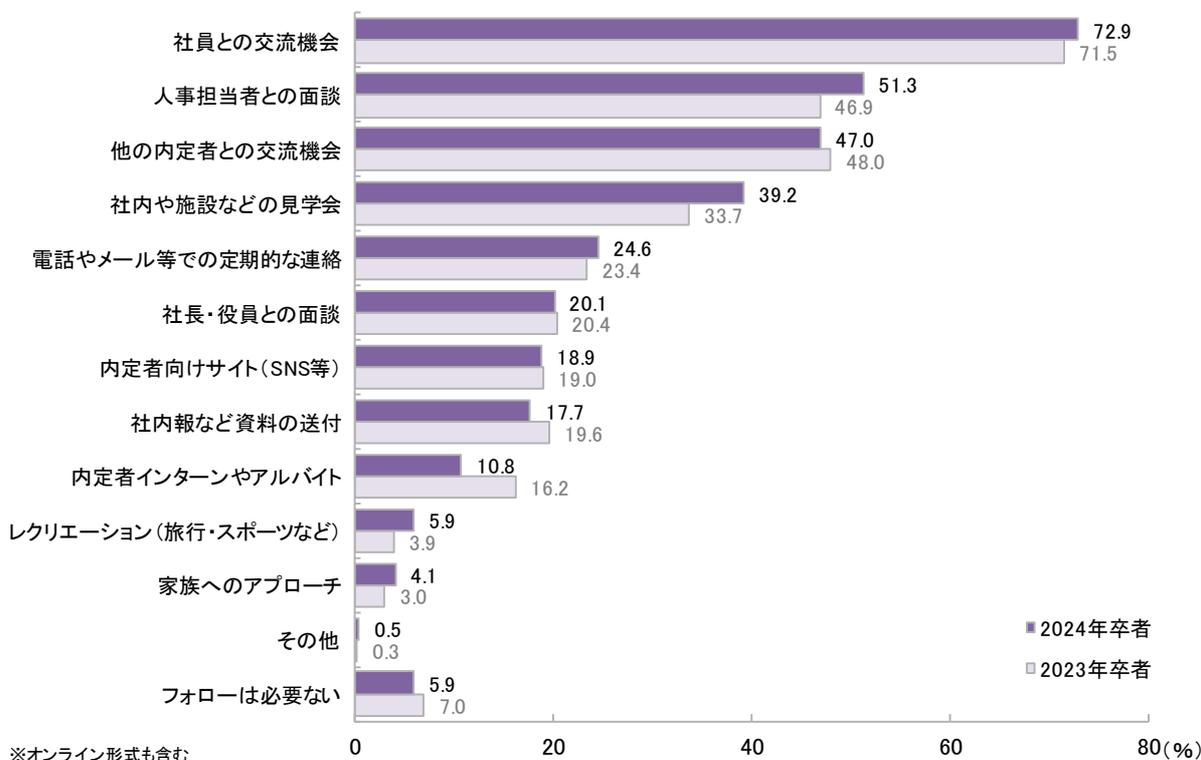


5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについて尋ねた。最も多いのは「社員との交流機会」で、7割を超える(72.9%)。現場の社員との対話を通じ、具体的な仕事内容や社風、働き方の実態などを確認したいのだろう。次いで、「人事担当者との面談」(51.3%)、「他の内定者との交流機会」(47.0%)が5割前後で続く。「社内や施設などの見学会」は前年調査より5.5ポイント増加した(33.7%→39.2%)。「フォローは必要ない」はわずか5.9%。

なお、対面でのフォローを必要とする学生は多く、「対面でのフォローは必要」(47.4%)、「内定までに対面での接点があれば必要」(35.6%)を合わせて8割を超え(計83.0%)、過去2年を上回る。内定を得るまでに対面での接点があった学生も増加しているが(計69.0%)、対面で得られる情報量の多さを実感したことで、最終的な意思決定にあたって、自分の目で直接確かめたいと考える学生が一定数いると見られる。

＜内定企業への意思決定に必要なと思うフォロー＞



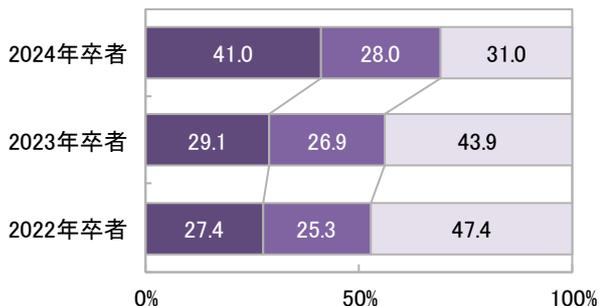
＜対面でのフォローの必要性＞

- 対面でのフォローは必要
- 内定までに対面での接点があれば必要
- 対面でのフォローは不要(オンラインのみで十分)



＜内定企業の対面接触経験＞

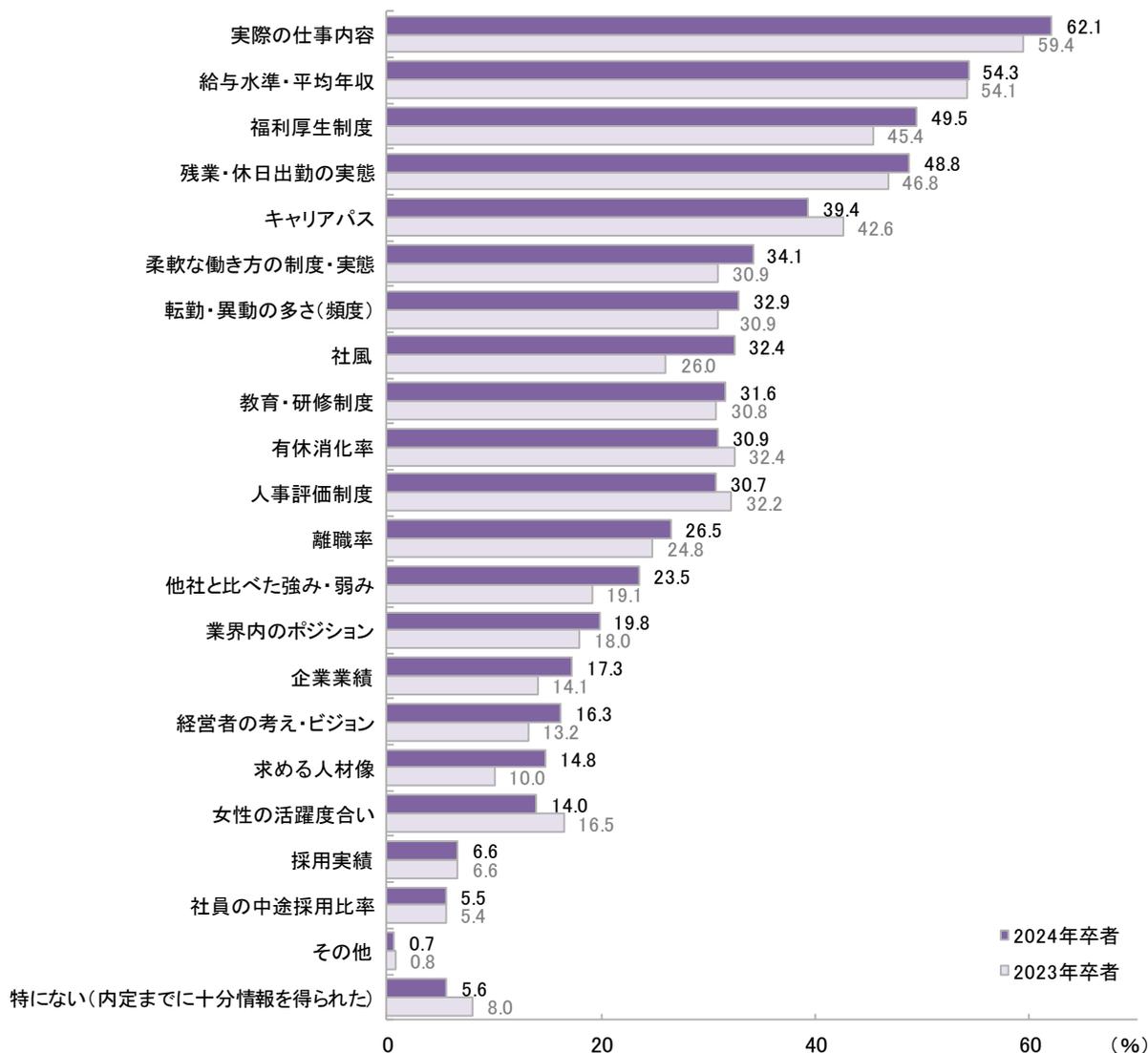
- 複数回ある
- 1回のみ
- 一度もない(WEBのみ)



さらに、意思決定のために、内定を得た企業についてもっと知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、6割超が選んだ(62.1%)。また、「給与水準・平均年収」(54.3%)、「福利厚生制度」(49.5%)、「残業・休日出勤の実態」(48.8%)、などが上位項目に挙がっており、選考中には聞きづらい情報も、入社後の意思決定にあたっては、しっかり確認したいという意向がうかがえる。

前年調査に比べ全体的にポイントが上昇。なかでも「社風」が6.4ポイント増加しており(26.0%→32.4%)、対面でのフォローを必要とする学生が増えていることが、このデータにも表れている。

＜内定企業への意思決定のためにもっと必要な情報＞



■具体的に知りたい情報や、必要だと思う内定後フォロー

- 実際の職場の雰囲気や、対面で感じ取ることは必要だと感じる。 <理系男子>
- 具体的な業務内容とともに、どのような生活を送ることになるのかをイメージできるような人事面談があれば嬉しく思います。 <文系男子>
- 弱みやデメリットも、隠したり誤魔化したりしないで教えて欲しい。 <文系女子>
- 内定者懇親会で、他の内定者の雰囲気などや面接官以外の社員の方も知りたいため、対面で開催して欲しいです。 <理系男子>
- 面接中に質問できなかった、給与や福利厚生などの具体的な説明がほしい。 <文系女子>
- 転勤の頻度、給料などキャリアプランに必要な要素。 <文系男子>

6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の 65.9%) の動向を確認したい。

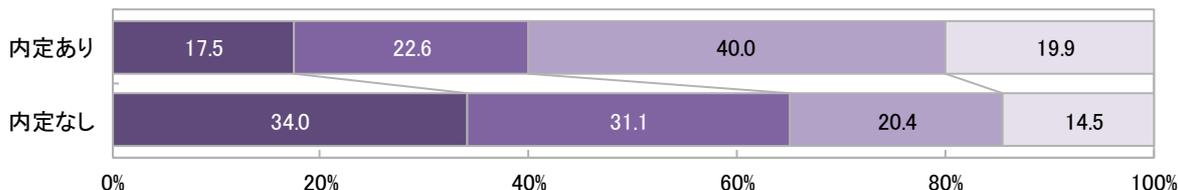
現在選考を受けている企業数は平均 4.0 社で、今後のエントリー予定社数は 2.3 社。内定の有無別に集計してみると、「内定なし」学生はこれからエントリーやセミナー参加、ES 提出を予定している社数が「内定あり」の 2 倍以上に上る。

今後の動き方や方針にも違いが見られ、内定を持ちながら活動する学生は「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」という回答が一番多いが (40.0%)、まだ内定のない学生では、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」が最も多い (34.0%)。内定獲得に向け、新たな企業に目を向けようとする姿勢が目立つ。

	(社)						
	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.0	4.1	3.8	4.2	4.4	2.9	3.5
今後のエントリー予定社数	2.3	1.5	3.1	2.7	2.3	1.8	1.2
今後の企業セミナー参加予定社数	1.8	1.1	2.6	2.0	1.9	1.4	1.2
今後のエントリーシート提出予定社数	2.2	1.5	3.2	2.7	2.3	1.6	1.6

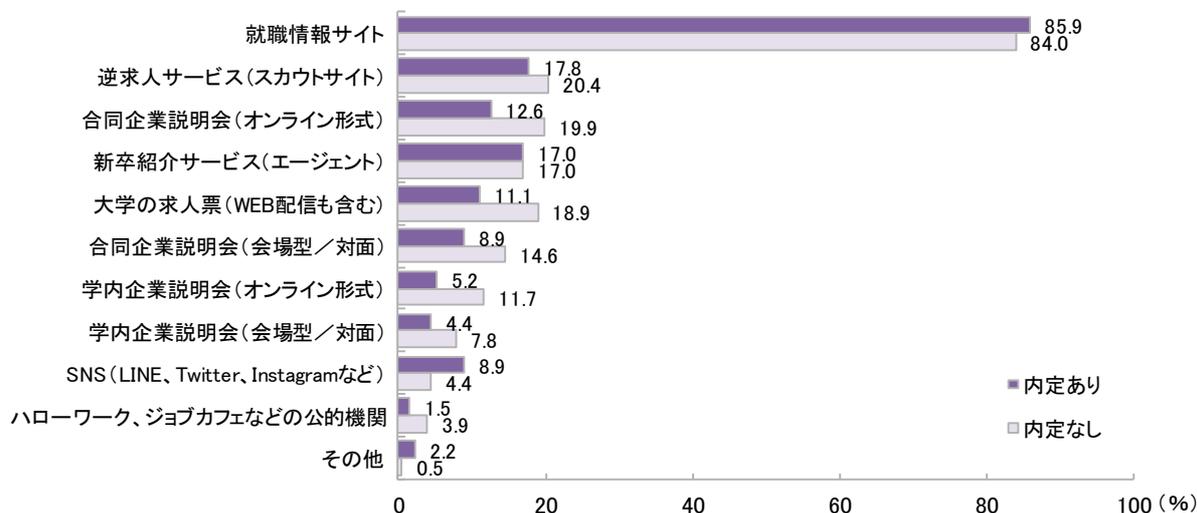
<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する



今後のエントリー予定社数を1社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段 (ツール) を尋ねた。「就職情報サイト」が8割強で圧倒的に高く、内定の有無にかかわらず企業探しの主な手段として利用されていることが見て取れる。また、未内定学生は、内定のある学生に比べ全体的にポイントが高く、様々な手段で企業を探そうという意欲が感じられる。

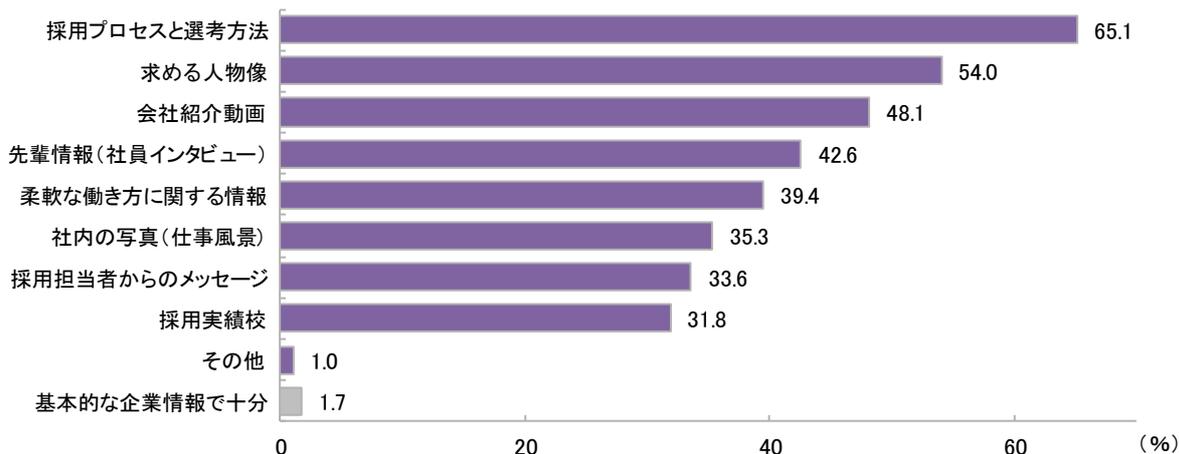
<新たな企業を探す手段>



就職情報サイトで企業を探していると回答した学生に、基本的な企業情報（会社概要、募集要項など）のほかにどんな情報を求めているのかを重ねて尋ねた。「採用プロセスと選考方法」が 6 割強で最も多く（65.1%）、まだ応募を受け付けているのかや、どのようなペースで選考が進んで行くのか等を、事前に知っておきたいと考える学生が多いのだろう。

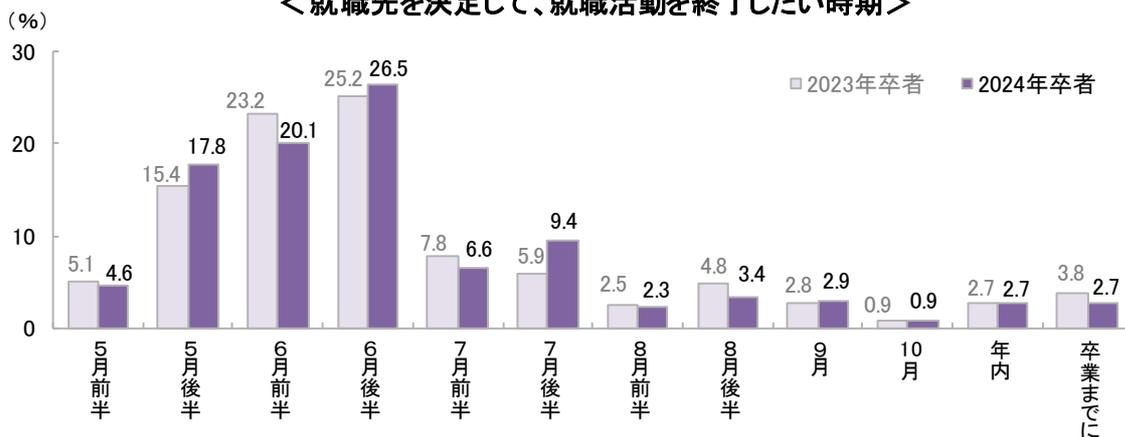
次に「求める人物像」（54.0%）と「会社紹介動画」（48.1%）が約半数で続く。「基本的な情報で十分」という学生はほとんどおらず（1.7%）、就職情報サイトからできるだけ多くの情報を得て、エントリーするかどうかを判断したいと考えている様子が見える。

<就職情報サイトで企業を探す際に求める情報>



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。前年同様「6 月」と回答した学生が多く、前半・後半を合わせて 4 割強が選択（計 46.6%）。選考解禁後の早い時期に終了したいと考えている学生が多いことがわかる。6 月後半までを合計すると約 7 割となり（計 69.0%）、前年（計 68.9%）とほぼ同率。6 月がひとつの目安となっていることがわかる。

<就職先を決定して、就職活動を終了したい時期>



■就活継続学生の声

- 内定がまだもらえずに余裕がないのと、選考結果を通じて自己分析の甘さを痛感。 <文系女子>
- ESは通るが、面接で落ちることが何度かあり、自信を失いかけている。 <文系男子>
- 本選考エントリーから面接通過率が悪くなり、苦戦している。 <理系男子>
- 自身の中で選択に迷いがあり、ここが第1志望と言い切れる企業が見つけられていない。 <文系女子>
- 一つでも内定を得られているとモチベーションアップに繋がる。 <理系女子>
- あとは第一志望の最終面接で熱量持って伝えるだけ。 <文系男子>

7. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 585 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

コロナ禍が明け、対面回帰が進む活動での戸惑いや、企業の採用意欲が回復し、早期化が加速する就職戦線での複雑な思いなど、どれも就活生の率直な心情が表れている。

